

全分会・地本役員会議

2024年11月24日

JR東海労新幹線関西地本

1. JR総連指導部と脱退表明者による組織破壊攻撃を粉碎し、東海の地に労働運動の炎を燃やし続けよう！

6月3日に開催されたJR総連第40回定期大会の閉会挨拶に立った柳副委員長は最後に、「JR東海労の心ある組合員と固く連帯して、現状を突破する。」と挨拶しました。11月14日、新幹線地本の森下暢紀、藪秀一、田村浩彰の3君が脱退届を持ってきました。以降、11月18日付けの郵送で長浜君。そして11月20日、本部事務所に15名の「脱退届」がFAX送信されてきました。送信元は藪君の自宅と思われ、おそらく藪君がまとめて送信したものです。11月14日の藪、田村、森下の3君と、郵送してきた長浜君を合わせると19名になります。「脱退届」は同じフォーマットで書かれてあり、氏名だけが直筆、日付の字は全て同じ筆跡で、本人が名前だけを書いて託したものです。要するに、目的を同じくした組織的な行動だということです。その中に、関西の乾真規、中塩路登志夫、太田勝一の3君の脱退届が含まれていました。柳副委員長が言っていた「心ある組合員」とは、この人たちの事を言うのでしょうか。そうであるなら、断じて許すことは出来ません。

11月14日はJR総連が臨時大会開催を決定した日であり、名古屋地区でも一部のOBが東海労組織の混乱を招く文書を送り付けてきました。これらと一連する脱退表明は、全てJR総連指導部が仕組んだ行動であることは一目瞭然です。関西の各職場では、3君の脱退表明者から理由を聞き組織破壊行為に対する抗議が展開されています。その過程で分かってきたことは、森下を中心にして新労組を立ち上げる。JR総連からの何らかの支援援助があることです。

東海労結成から33年間在籍し共に行動してきた者たちが、退職まであとわずかしかない中での脱退表明です。表明者は「東海労が変質した」とか「関西の言いなり」とか、挙句の果てには「淵上が責任とれ」などと言っています。しかし、東海労のどこがどのように変質したのか？どこが関西の言いなりなのかは誰も語れません。それは、東海労がJS労の仲間と共に、職場の代表として労働者の権利と利益のために闘い続けていることを否定できないからです。彼らが今行っていることは、職場の労働条件改善の闘いを放棄するだけでなく、会社と闘っている私たちに対する妨害行為です。闘わない連中の私たちの闘う仲間に対する批判は絶対に許されることではありません。

脱退表明者は、「森下を支える」と言っています。しかし、脱退表明者のそれぞれの退職日を見ると、一番早く退職する木藤純宏が来月12月、2025年が8名、2026年が3名、2027年が1名、2028年が2名、そして2029年が3名であとは森下暢紀を残すだけになります。そもそも、森下を支える気などないことは「脱落者」の声からも明らかになっています。

これまで分会運動の足を引っばってきた大阪運輸所分会の太田勝一君の嘘と矛盾が明らかになっています。車両所分会の乾真規君の嘘と矛盾も明らかになっています。また、中塩路登志夫君は、「誰とも、何も話をしない」と言って逃げています。(別紙参照)

この間、私たちは職場からの闘いで多くの成果を勝ち取ってきました。その成果は、職場の労働者の声が証明しています。特に第三者機関を活用した職場での闘いによって、会社に現状を変えさせてきました。会社は東海労の存在を無視できない状況になっていますし、JS労の闘いは、職場の労働者にも大きな関心と影響を与えています。

私たちは今後も、あらゆる政党・党派からの支配介入とそれに操られた者からの組織破壊攻撃を許さず、JS労の仲間と連帯し、職場で困っている労働者と固く手を握り、労働者の権利と利益を守るために闘っていきます。

2. 9条連・近畿事務局の佐々木、舟山共同代表による東海労排除の言動を許さず、平和と民主主義を守る地域の仲間との連帯を強化しよう！

憲法9条を守り広めるための9条連に危機が迫っています。それはJR総連指導部と気脈を通じた9条連近畿共同代表等が9条連近畿を私物化しようとしているからです。「事務局会議に貨物労組の事務局員である津崎と稲垣が出席しないのは、混乱することを分かっていた津崎裁判が原因であり、東海労選出の事務局員の笹田、康乗さんは事務局会議に出席するべきではない」と佐々木共同代表が発言しました。また、舟山共同代表は、「除名処分が出されたら関西地本も除名となる。そうすると9条連近畿も除名となる」と主張しています。JR総連の除名ありきを前提とし、それと連動させて東海労を排除しようとする主張は、大衆運動・大衆組織に特定の思想・信条を押し付け、自分達の主義主張以外は排除する行為です。

私たちは、2人の共同代表による言動に対して申し入れを行い、11月20日までに回答するように申し入れましたが、既に期限が過ぎています。12月7日に予定していた総会の打ち合わせのための事務局会議を開催するとしていましたが、共同代表と一部のみで勝手に「延期」を決定しました。その挙句に、会員に「賛助団体問題で総会の議論が出来ませんでした。」と開催延期のお知らせの文書を郵送して、佐々木、舟山氏の共同代表の問題発言を隠し、逃げ切ろうとしています。そして佐々木共同代表は、わざわざ康乗さんの自宅へ夜遅く電話し、「個人として発言したのに・・・」と言い訳しています。これら9条連近畿から東海労関西地本を排除しようとする動きも、JR総連からの東海労「除名」と一致しています。

地本は、9条連近畿事務局の佐々木、舟山共同代表による差別・排除発言は絶対に認められません。両代表の言動では憲法9条を守り広めることなどできないことは明らかです。今後の対応について、みなさんと相談しながらすすめていきます。

3. 津崎裁判勝利！「津崎文書」に基づいた組織破壊攻撃粉碎！東海労全体で組織破壊攻撃を跳ね返そう！

10月16日に開催された第1回口頭弁論では、原告の渡邊（副委員長）が力強く意見陳述を行いました。開廷1分前になって、裁判所から別室に待機させてもらっていた津崎被告は弁護士に連れられ、JR総連の山口委員長以下の傍聴者と共に、裁判所の係員に引率されざろざろと入廷しました。そして、渡邊さんの意見陳述を聞いた後も、係員に引率され退廷しました。また、その後の、JR総連が開催した集会や報告の情報では裁判の内容に一切触れず、東海労悪者論の発言を繰り返すだけだったようです。まさに、「国家権力＝裁判所に仲間を売った」と叫んでいた当の本人たちが、裁判所の係員に引率され現れるというありさまで、誰が国家権力にすぎり、守られているのかが明らかになりました。

12月11日に第2回津崎裁判が開催され、原告から準備書面を提出します。誰が一連の攻撃を指示してきたのかが明らかにされます。今後も私たちは、誰が嘘をついているのかを明らかにすると同時に、誰が何の目的のために「津崎文書」を作成させたのか、真実を明らかにするために闘います。

4. 第42回臨時大会への組合員最大結集を呼びかけよう！

2024年12月11日、東海労は第42回臨時大会を大阪の地で開催します。今臨大は、JR総連と脱退表明者による組織破壊攻撃を許さないこと、そして改めて東海の地に労働運動の炎を赤々と燃やし続けることを確認する大会です。

津崎裁判の勝利と臨大成功を勝ち取るために、組合員の最大限結集を目指していきましょう。

本日の会議での、活発な議論をお願いします。

以上